

県中学新人ハンド

ハンドボールの第18回浦添市長杯争奪第49回県中学生新人大会最終日は10日、ANAアリーナ浦添で行わ

れ、女子決勝は仲西が浦西を20-18の逆転で下し、2年連続11度目の優勝を飾った。男子決勝は神森が松島を46-34で破り、2年ぶり19度目の頂点に立った。3位決定戦女子は神森が東風平を27-20で、男子は浦添

が東風平に35-18で勝った。男女優勝校は全国中学生選抜大会(3月26-29日、富山県)に、男女準優勝校と3位校は九州大会(3月18-20日、熊本県)に出場する。

【女子】

▽準決勝

仲西 32-26 東風平

浦西 23-16 神森

▽3位決定戦

神森 27-20 東風平

▽決勝

仲西 20(7-12)18 浦西

【男子】

▽準決勝

神松 34-27 浦添

松島 31-18 東風平

▽3位決定戦

浦添 35-18 東風平

▽決勝

神森 46(23-14)34 松島

多彩な攻撃 終盤逆転 仲西

スポーツ

女子仲西が終盤の逆転劇で2年連続の優勝を勝ち取った。折り返し時点の5点ビハインドをじわりと追い上げ、残り4分を切ってから初めて浦西をリード。終了間際にフロウターの大城詩主将が中央からゴール右下に強烈なシュートを決め、20-18で熱戦に終止符を打った。

決勝はリードを奪われても後半に楽しみながら一生懸命プレーするという原点に戻った。右45度を軸に6得点したフロウターの大城佑月は後半、浦西のエース前盛静来を自由にプレーさせないことを心掛け、守備から攻撃の流れを呼び込んだ。「気持ちで負けないよう守備を頑張りました」と達成感をにじませた。

大城詩と大城佑の2年生二枚看板へのマークが厳しくなった終盤は、攻撃に変化をつけた。この2人が後方に下がり、空いたスペースに西原琉美花と金城羽奈の1年生コンビが切り込む多彩さも見せた。

大城詩は昨年12月のJOC杯県代表に2年生ながら選ばれた攻撃の要。決勝では最多の9得点を挙げた。「前半は負けていたけど、楽しむことと守ってからの速攻を意識した。逆転で勝ててうれしい」と喜んだ。(溝井洋輔)



女子優勝の仲西



女子決勝 仲西-浦西 後半、仲西の大城詩が18点目のシュートを決める=ANAアリーナ浦添 (小宮健撮影)

仲西V2 男子は神森

後半猛攻 9連続得点 神森

男子は神森が32-30の接戦で迎えた後半残り15分から9連続得点を奪い、粘る松島を引き離した。案外試合はなかった。地区予選で敗れた浦西に準々決勝で借りを返し、準決勝は地区優勝の浦添に勝った。攻守で地方を発揮し、2年ぶり19度目の優勝を飾った。

決勝は松島が終盤まで粘りを見せた。初の九州切符獲得に続き初優勝を目指してセンター高岡寛大主将が攻守で存在感を示した。エース洲鎌花は最多17得点を挙げて食い下がった。

神森はエース普久原朝日が序盤で負傷退場するハプニングもあったが、それが団結の発奮材料になった。司令塔の新垣瑛太郎主将は「朝日に優勝を届けられるよう気持ちを切らさずに頑張った」。縦への速攻を狙い、ノーマークを見つけてはシュートに持ち込んでチーム最多15得点を挙げた。

堅守も光った。GK前城有里と共に要となったポストの新里秀斗は「相手は身長が高くて力が強かったが前でガチガチ当たった」と激しい当たりの成果を誇った。

決勝8得点の左サイド安里康生は「全国大会は全試合圧倒して優勝したい」と力を込めた。



男子決勝 神森-松島 前半、22点目のシュートを放つ神森の新里秀斗(左)男子優勝の神森

